

【専門分野 I】

講義科目名	単位	時間数	配当年次	学期
看護学概論	1	30	1	1
講師	専任教員			
	病院における看護実践および看護管理の経験を活かし講義により教授する。			
講義目的	看護の理論、基本概念(人間、環境、健康、看護)、看護の歴史を学び、看護の対象、看護の機能について理解する。			
時	授業内容	授業方法	備考	
1	看護とは(導入)	講義		
2	看護と看護理論 看護の変遷 看護の定義 理論家と理論(ナイチンゲール ヘンダーソン)	講義		
3	看護の役割と機能 看護ケア 看護の質保証 役割拡大	講義		
4	看護の対象の理解 看護の対象としての人間	講義 演習		
5	看護の対象の理解 生活者としての人間理解 看護の対象としての家族	講義 演習		
6	健康のとらえ方と健康状態 健康の定義 日本人の健康状態	講義 演習		
7	健康のとらえ方と健康状態 ライフサイクルと健康・生活 健康の関連要因	講義 演習		
8	看護の提供者について 職業としての看護 看護職の資格取得制度	講義		
9	看護の提供者について 看護職者の就業状況と継続教育 看護職の育成に関する現状と課題	講義		
10	看護提供のしくみ 看護サービス提供の場 看護をめぐる制度	講義		
11	看護における倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義		
12	看護における倫理 現代医療における倫理的問題 看護実践における倫理問題への取り組み	講義 演習		
13	広がる看護の活動領域 国際化と看護 国際協力の仕組み	講義		
14	広がる看護の活動領域 災害看護の概念と構造 災害サイクルにそった看護活動	講義		
15	まとめ	講義	(45分)	
16	終講試験		(45分)	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 事例で学ぶ看護理論 学研			
評価方法	筆記試験			

【専門分野 I】

講義科目名		単位	時間数	配当年次	学期
看護基本技術 I (コミュニケーション・観察・フィジカルアセスメント)		1	30	1	1
講師	専任教員				
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。				
講義目的	看護の対象を理解する技術としてコミュニケーション・観察・フィジカルアセスメントを基本技術として習得する。				
時	授業内容	授業方法	備考		
1	コミュニケーションとは(意味、構成要素と過程、種類) 医療・看護におけるコミュニケーションとは(目的・特徴・重要性) 効果的なコミュニケーション ミスコミュニケーション コミュニケーションを阻害する要因	講義			
2	効果的なコミュニケーション 接遇のコミュニケーション 接近的行動と非接近的行動	講義			
3	効果的なコミュニケーション 傾聴 説明 アサーティブネス	講義			
4	効果的なコミュニケーション コミュニケーション傷害のある患者へのコミュニケーション	講義			
5	ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント フィジカルアセスメントの基本技術(問診 視診 触診 打診 聴診)	講義			
6	バイタルサインとは バイタルサインの観察(体温 呼吸)	講義			
7	バイタルサインの観察(脈拍 血圧)	講義			
8	バイタルサインの観察と実際(意識 脈拍 血圧)	講義 演習			
9	バイタルサインの実際(血圧)	演習			
10	バイタルサインの実際(体温 脈拍 呼吸 血圧)	演習			
11	体温調整への援助(覆法)	演習			
12	呼吸のフィジカルアセスメント	講義 演習			
13	循環のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習			
14	運動器系のフィジカルアセスメント 身体計測	講義 演習			
15	技術評価		(45分)		
16	終講試験		(45分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護技術プラクティス 医学書院 フィジカルアセスメントブック 医学書院				
評価方法	筆記試験				

【専門分野 I】

講義科目名		単位	時間数	配当年次	学期
看護基本技術Ⅱ(看護過程)		1	30	1	2
講師	専任教員				
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。				
講義目的	看護の方法として看護実践を進める手順や考え方である看護過程の基礎を理解する。また、事例展開を基に看護過程の実際を学ぶ。				
時	授業内容	授業方法	備考		
1	看護過程とは 看護過程の意義 看護過程の構成要素 看護過程の展開に必要な考え方	講義			
2	アセスメント アセスメントの枠組み 情報収集の方法	講義			
3	アセスメント 情報の整理・分析	講義			
4	全体像の把握 看護問題の明確化	講義			
5	事例を用いた情報収集	演習			
6	事例を用いた情報収集	演習			
7	事例の情報の分析、アセスメント	演習			
8	事例の看護問題の明確化	演習			
9	事例のニーズの充足・未充足 看護問題の検討	演習			
10	目標設定・看護計画の立案と評価	講義 演習			
11	看護計画の立案	演習			
12	看護計画の立案	演習	(45分)		
13	計画に基づいた援助の実施	演習			
14	計画に基づいた援助の実施	演習			
15	実施の評価・記録	講義			
16	終講試験		(45分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューウェルヒロカワ 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護過程に沿った対症看護 学研				
評価方法	筆記試験				

【専門分野 I】

講義科目名	単位	時間数	配当年次	学期
看護基本技術Ⅲ(感染予防、食事・排泄)	1	30	1	1
講師	専任教員			
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。			
講義目的	看護行為を行う場合の基本となる安全を守る技術として感染予防の技術を習得する。また、食事・排泄の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための基本技術を習得する。			
時	授業内容	授業方法	備考	
1	感染と感染症 感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防の三原則 感染予防策 スタンダードプリコーション	講義		
2	感染予防策 感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌	講義		
3	手指衛生の実際 衛生学手洗い 手指消毒 個人防護用具の着脱	演習		
4	無菌操作 滅菌物の保管 滅菌物の取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い	講義		
5	無菌操作 滅菌物・滅菌包の開封	演習		
6	無菌操作 消毒綿球の受け渡し	演習		
7	無菌操作 滅菌手袋の着脱 滅菌ガウンの着脱	演習		
8	技術評価	演習	(45分)	
9	日常生活における食事の意義 栄養状態および摂食能力のアセスメント	講義 演習		
10	日常生活における食事の援助	講義 演習		
11	食事介助の実際	講義 演習		
12	非経口的栄養摂取について 日常生活における排泄の意義 排泄(排尿・排便)のメカニズム・アセスメント 自然な排尿への援助	講義 演習		
13	自然な排尿への援助(床上排泄ポータブルトイレ)	講義 演習		
14	排便を促す援助(自然排便・浣腸)	講義 演習		
15	便秘に対するケアと浣腸の援助の実際	演習		
16	終講試験		(45分)	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 学研			
評価方法	筆記試験			

【専門分野 I】

講義科目名		単位	時間数	配当年次	学期
日常生活援助技術 I (環境、活動・休息)		1	30	1	1
講師	専任教員				
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。				
講義目的	環境、活動・休息の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。				
時	授業内容	授業方法	備考		
1	看護技術とは、日常生活援助技術とは 療養生活の環境 人と環境 療養生活と環境 生活環境の調整 病室の環境調整	講義			
2	療養生活の安全確保 身の回りの環境から病床の安全・安楽な環境を考える	講義 演習			
3	病床の作り方 ベッドメイキング 下シーツのたたみ方 基本のベッドメイキング	講義 演習			
4	ボディメカニクスを活用した基本的ベッドメイキング	演習			
5	リネン交換 転倒転落 外傷予防 病床環境の援助	講義			
6	臥床患者のリネン交換 健康回復につながる病床環境への気づきと調整	演習			
7	基本的な活動の援助について 人間における活動と休息 活動に対する看護の役割	講義			
8	ボディメカニクスについて 基本的な体位と特徴 ボディメカニクスの基本原理	講義			
9	体位変換の実際 水平移動 仰臥位から側臥位への移動 ポジショニング	演習			
10	体位変換の実際 車椅子の点検 仰臥位—長座位—端座位への体位変換	演習			
11	移動の実際 ベッドから車椅子への移動(移乗)	演習			
12	移動・移送の援助 移動・移送時の危険性 車椅子 ストレッチャー 歩行器 杖歩行	講義 演習			
13	移動・移送 車椅子の移送 ストレッチャーの移乗と移送 歩行介助	演習			
14	睡眠・覚醒の援助 レム睡眠 ノンレム睡眠 睡眠障害の種類 要因	講義			
15	技術評価	演習	(45分)		
16	終講試験		(45分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 学研				
評価方法	筆記試験				

【専門分野 I】

講義科目名	単位	時間数	配当年次	学期
日常生活援助技術Ⅱ(清潔・衣生活、記録・報告)	1	30	1	1
講師	専任教員			
	病院における看護実践の経験を活かし講義および演習により教授する。			
講義目的	清潔・衣生活の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。また、日常生活における看護実践の記録・報告の意義・実際を学ぶ。			
時	授業内容	授業方法	備考	
1	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助 目的 清潔行動のアセスメント 援助方法の判断 援助方法の種類と特徴	講義		
2	入浴 全身清拭 目的 留意点と根拠 入浴の種類と方法 全身清拭の種類と方法	講義		
3	寝衣交換(和式寝衣)の実際	演習		
4	臥床患者の清拭の実際	演習		
5	臥床患者の清拭の実際	演習		
6	手浴・足浴 陰部洗浄 目的 留意点と根拠 手浴・足浴の種類と方法 陰部洗浄の種類と方法	講義		
7	臥床患者の足浴の実際	演習		
8	臥床患者の陰部洗浄の実際	演習		
9	洗髪 洗髪の方法 留意点と根拠 種類と方法	講義		
10	臥床患者への洗髪の実際	演習		
11	口腔ケア・身だしなみ(整容) 口腔ケア・身だしなみの目的 留意点と根拠 種類と方法 臥床患者の口腔ケアの実際	講義 演習		
12	技術評価		(45分)	
13	看護記録とは 看護記録の目的 看護記録に関する法的規定 看護記録の原則 看護記録記載時の注意点 看護記録の監査 看護記録の管理	講義		
14	医療事故発生時の記録 電子カルテとクリティカルパス 看護記録の構成 演習(SOAP フローシート 熱型表)	講義 演習		
15	看護における報告 連絡 相談	講義		
16	終講試験		(45分)	
テキスト	系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 医学書院			
評価方法	筆記試験			

【専門分野 I】

講義科目名	単位	時間数	配当年次	学期
治療処置別援助技術 I	1	30	1	2
講師	専任教員			
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。			
講義目的	治療や処置に対する対象のニーズを把握し、安全・安楽を基盤とした薬物療法と看護に必要な援助技術を習得する。			
時	授業内容	授業方法	備考	
1	薬物療法とは 薬物療法の意義・目的 薬物療法に関する法律 薬物療法における看護師の役割	講義		
2	薬物療法を受ける患者の看護 与薬の基礎知識 薬物の吸収・排泄経路 薬の作用 相互作用・副作用 投与の際の注意事項	講義		
3	薬物療法を受ける患者の看護 薬物療法に影響を与える要因	講義		
4	与薬の技術 経口与薬	講義 演習		
5	与薬の技術 口腔内与薬 吸入 点眼 点鼻 点耳 直腸内与薬 経皮的与薬	講義		
6	注射法 皮下注射 皮下注射 筋肉内注射の方法	講義		
7	皮下注射の実際 処方箋の確認 注射器と注射針の接続 アンブルからの吸い上げ 部位の選定 消毒 刺入・薬液の注入	演習		
8	筋肉内注射の実際 処方箋の確認 注射器と注射針の接続 アンブルからの吸い上げ 部位の選定 消毒 刺入・薬液の注入	演習		
9	注射法 点滴静脈内注射の方法 処方箋の確認～プライミング	講義		
10	点滴静脈内注射の実際 輸液セット 翼状針の接続 バイアルからの吸い上げ 混注 プライミング	演習		
11	注射法 点滴静脈内注射の方法 三方活栓(シュアプラグ) 翼状針の構造と取り扱い	講義		
12	点滴静脈内注射の実際 上肢への点滴静脈内注射の翼状針での刺入 滴下調整 抜針	演習		
13	点滴静脈内注射の実際 処方箋の確認から翼状針へのプライミングまで	演習		
14	輸血療法を受ける患者の看護 輸血の種類、看護者の役割、輸血に関する医療事故	講義		
15	技術評価		(45分)	
16	終講試験		(45分)	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座、専門分野 I 基礎看護学[4]臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研			
評価方法	筆記試験			

【専門分野Ⅰ】

講義科目名		単位	時間数	配当年次	学期
治療処置別援助技術Ⅱ		1	30	1	2
講師	専任教員				
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。				
講義目的	治療や処置に対する対象のニーズを把握し、安全・安楽を基盤とした診察・検査・処置に必要な援助技術を習得する。				
時	授業内容	授業方法	備考		
1	検査・処置・治療を受ける患者の看護	講義			
2	検査・処置・治療を受ける患者の看護 検体検査 生体検査	講義			
3	検査を受ける患者の看護 静脈血採血	講義			
4	検査を受ける患者の看護 静脈血採血の実際 血管選定 穿刺部の消毒 分注	演習			
5	検査を受ける患者の看護 静脈血採血の実際 注射器の固定 穿刺 必要量採取 圧迫止血	演習			
6	検査を受ける患者の看護 静脈血採血の実際 一連の流れ	演習			
7	処置を受ける患者の看護 創傷処置 包帯法	講義 演習			
8	処置を受ける患者の看護 口腔・鼻腔吸引 気管内吸引	講義			
9	処置を受ける患者の看護 口腔・鼻腔吸引の実際	演習			
10	処置を受ける患者の看護 気管内吸引の実際	演習			
11	処置を受ける患者の看護 一時的導尿 持続的導尿	講義			
12	処置を受ける患者の看護 持続的導尿の実際	演習			
13	治療を受ける患者の看護 酸素療法 ネブライザー	講義			
14	治療を受ける患者の看護 酸素療法 ネブライザー治療の実際	演習			
15	技術評価		(45分)		
16	終講試験		(45分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4]臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研				
評価方法	筆記試験				

【専門分野 I】

講義科目名		単位	時間数	配当年次	学期
健康段階別援助技術		1	30	2	1
講師	専任教員・救急科医師・臨床工学士				
	病院における看護実践の経験を活かし、講義および演習により教授する。				
講義目的	健康段階と治療の特徴、患者のニーズを理解し、健康段階と主要な症状に応じた援助技術を習得する。				
時	授業内容	授業方法	備考		
1	健康段階(経過)別看護 経過に基づく患者の看護 急性期 周手術期 回復期 慢性期 終末期	講義			
2	急性期の経過をたどる患者の看護とその実際 集中治療を受ける患者家族の看護	講義			
3	回復期の患者の看護 リハビリテーション期の看護	講義			
4	慢性期の患者の看護	講義			
5	終末期の患者の看護	講義			
6	周手術期患者の看護 手術療法とは 周手術期の経過・看護の要点 手術療法を受ける患者の看護 手術前の看護	講義			
7	手術療法を受ける患者の看護 手術室の安全管理 手術入室前の看護 麻酔とその看護 手術中の看護 手術侵襲・生体反応	講義			
8	手術療法を受ける患者の看護 術後の全身管理	講義			
9	手術療法を受ける患者の看護 術後の合併症と予防	講義			
10	創傷処置・包帯法	講義			
11	救急時の看護 急変時の対応 ショックの種類・メカニズムと援助	講義			
12	心肺蘇生法 一次救命処置(BLS) 二次救命処置(ACLS) 止血法	講義			
13	一次救命処置の実際	演習			
14	ME機器の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義	(45分)		
15	ME機器の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習			
16	終講試験		(45分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 臨床看護学叢書 経過別看護 メヂカルフレンド社 看護過程に沿った対症看護 学研 看護技術プラクティス 学研				
評価方法	筆記試験				

【専門分野 I】

講義科目名	単位	時間数	配当年次	学期
看護研究	1	30	2	1・2
講師	専任教員			
	病院における看護実践の経験を活かし講義により教授する。			
講義目的	EBNを理解し、最新・最良の看護実践を行うために研究を活用し、直接・間接的に看護研究に関わるための基礎を学ぶ。			
時	授業内容	授業方法	備考	
1	授業の進め方の説明(内容 方法 時期 他科目との関連 評価) 看護研究とは 研究の必要性・重要性 研究に求められる条件 看護研究の目的	講義		
2	看護研究のプロセス リサーチクエスチョン 文献レビューとその方法	講義 演習		
3	看護研究のプロセス 研究デザイン データ収集 データ分析	講義 演習		
4	看護研究のプロセス 倫理的配慮 研究計画書	講義 演習		
5	看護研究のプロセス 研究計画書の作成	講義 演習		
6	看護研究のプロセス 研究計画書の(作成)発表 研究依頼書・同意書などの作成	講義 演習		
7	看護研究のプロセス 研究依頼書・同意書などの作成 プレテスト実施 論文の作成	講義 演習		
8	看護研究のプロセス 結果の発表 論文作成の続き 研究成果のまとめ方	講義 演習		
9	事例研究(ケーススタディ) 事例研究(ケーススタディ)の意義・目的 ケーススタディの構成とまとめ方	講義		
10	事例研究(ケーススタディ) 文献レビュー ケーススタディに活かす中範囲理論	講義		
11	事例研究(ケーススタディ) ケーススタディの口頭発表のポイント 発表原稿 スライド ポスター 発表準備 質疑応答	講義		
12	事例研究(ケーススタディ) ケーススタディ計画書作成 文献検索 個別指導	演習		
13	事例研究(ケーススタディ) ケーススタディ計画書作成 文献検索 個別指導	演習		
14	事例研究(ケーススタディ) ケーススタディ計画書作成 文献検索 個別指導	演習		
15	事例研究(ケーススタディ)の発表 講評	演習	(45分)	
16	終講試験		(45分)	
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			
評価方法	筆記試験			